

●仲間や家族と沖釣りホリデー!
Charter boat fishing with friends and family

貸し切り船 ナビ

仕立専門
●撮影・文 / 古河好夫

【第31回】
三浦半島長井漆山港
昇丸

今回の釣り仲間
●取材でお邪魔させていただいたのは、神奈川県藤沢市の湯浅義行さんが幹事を務めるグループ。釣り物はイワシメバルです。



三浦半島長井漆山港の昇丸は5名から受け付けてくれるので少人数のグループにもおすすめの船宿。漁師でもある3人の船長が漁の経験で培った経験を生かし、相模湾の多彩な釣り物を存分に楽しませてくれる。



▲釣り場は長井沖の水深3～20メートル

TARGET
イワシメバル

堤ヶ谷英樹船長に聞きました!
イワシメバルのコツ

「仕掛けを投入して着底したら竿先を1メートルほどゆっくり上げて10～20秒くらい待ちます。で、アタリがなければ竿先をゆっくり下げていって底を取り直します。これの繰り返しなんです、底にオモリを着けたままにすると根掛かり



してしまうので注意してください。アタリがあったら魚の重みに乗ってから軽く合わせるのがコツで早合わせは禁物です。それと掛かったメバルが大きい場合は必ずタモですくうようにしてください。ハリス切れでバラっちゃうもったいないので」



▲子供たち朝から絶好調!



▲ハイペースで釣り上げる福本裕人くん



●福本翔くんが朝イチに釣り上げた25センチオハリの本命

親子三代で営む アットホームな船宿

昇丸の堤ヶ谷昇大船長が、漁の合間にお客さんを船に乗せるようになったのは30年以上も前のこと。現在も釣り船の予約がないときは、ヒラメの刺し網漁やタコツボ漁に出るという。船は常時3隻体制で堤ヶ谷昇大船長と息子の英樹船長、英樹



●30センチ級の尺メバルも上がった



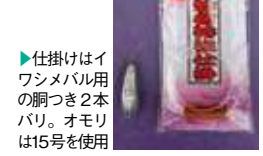
●幹事の湯浅義行さん、もアカハタをマツチ



▲エサのイワシはイケスから5匹前後バケツに移して使う



▲エサは5～7センチほどのカタクチイワシ。ハリスは下アゴから刺して上アゴに抜く



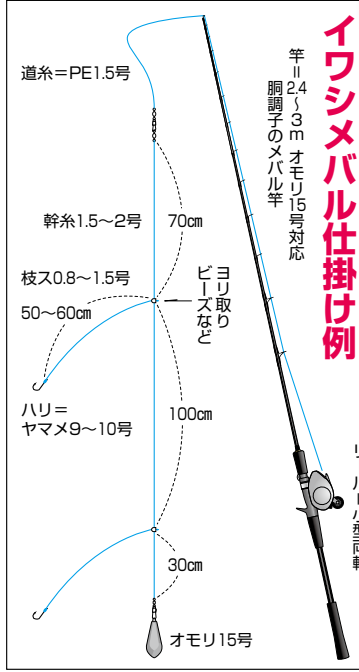
▶仕掛けはイワシメバル用の胴つき2本バ。オモリは15号を使用

船長の息子である涼船長が舵を握り、親子三代に渡って訪れる釣り人を楽しませている。英樹船長に1月中旬以降のおすすめのうかがうと、まずは最盛期を迎えるイワシメバル。20～25センチ級の良型中心に30センチ級の大型が顔を見せることも珍しくない。アカハタやカサゴ、ヒラメといったうれしいゲストも交じり、エサの生きイワシが入手可能な限り春まで楽しめる。釣り場は港からすぐの長井沖で水深3～20メートルの根周りを探る。使うオモリも15号と軽く釣り場も近いので女性や子供を連れてファミリーフィッシングにもいいだろう。冬場は泳がせ五目も人気を集めりピーターも多い。釣れる魚種はマハタ、アオハタ、ヒラメ、

息子と一緒に楽しんでます! by 福本哲哉さん

当日は小学校6年生と5年生のお子さんと釣りを楽しんでいた神奈川県相模原市の福本哲哉さん。お子さん二人はとにかく釣りが上手で小学生と思えないレベル。二人の釣り好きキッズについて聞いてみました。「お兄ちゃんの裕人は小学3年生から釣りを始めて今では毎週私と船に乗っています。本当に釣りが好きで竿を手にとるとズツとやっていますね。弟の翔はちょっと飽きっぽいところがありますが、やっぱり釣り好きですね。子供は覚えるのが早くてどんどん上達します。先々週はカワハギ、先週はアマダイに行っ

たんですがお兄ちゃんに負けました(笑) 将来が楽しみな裕人さんと翔くん。これからもお父さんと一緒に釣りを思いっきり楽しんでください。



食味を味わえる。釣り場は城ヶ島沖の水深60メートル前後で、今後水温の低下とともにイワシの群れが接岸すれば浅場で良型のマハタやヒラメが期待大とのこと。もちろんエサの生きイワシは船長が用意してくれる。この時期はアマダイも狙いで城ヶ島沖や江ノ島沖などの水深80～90メートルが釣り場。25

●三浦半島長井漆山港

昇丸

NOBORUMARU
Nagai-Urishiyama Port, Miura Peninsula
☎046-856-1599 (詳細は巻末の情報欄参照)



▲梶ヶ谷英樹船長が舵を握る第8昇丸。最大で15名まで利用可能。10~12名までが釣りやすい

料金プラン

●カワハギやアオリイカなど、近場の釣り物は5名まで4万5000円。1人増し9000円(釣り物により変動あり)。そのほかの釣り物は5名まで5万円~。1人増し1万円~。カツオ、キハダなどは電話にて確認。船長と相談のうえりレー釣りも可能。下船後に駐車場で精算。



▲梶ヶ谷涼船長
▼レンタルタックルも完備



▲船のイキケスにはエサのイワシが元氣よく泳ぐ

- 利用ガイド**
- 【予約方法】** 電話にて日程、人数、希望の釣り物などを伝えて日取りを確保
 - 【出船時間】** 6~13時(季節によって変動あり)。沖揚がりまで最大7時間
 - 【エサ、氷、仕掛けなど】** 氷付き。エサ、仕掛けは別料金
 - 【レンタルタックル】** 手巻きリールのセット、電動リールのセットあり(いずれもロッドキーパー付き。料金は電話確認)
 - 【集合場所】** 長井漆山港に集合。車は乗船場に隣接する駐車スペースに停める
 - 【備考】** 生きイワシは予約時に船長に伝えて確保(値段は変動あり)

《釣り物カレンダー》

釣り物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
泳がせ五日	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
ヒラメ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
カワハギ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アマダイ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
メバル	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アオリイカ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
ヤリイカ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
スルメイカ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
マルイカ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
シロギス	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
カサゴ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
マダイ五日	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アジ五日	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
カツオ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
キハダ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚



▲ノボリで釣ったメバルが浮上してくる瞬間は興奮を覚える

●メバルも25センチオーバーになると驚くほど強い引きを見せる

昇丸のココが好き!

幹事の湯浅義行さんに聞きました!

優しい船長にいつもよく釣らせてもらってます! 少人数で仕立てられるのもいいですね

「昇丸は2年ほど前から月イチペースで利用しています。少人数で仕立てられるうえ、船長が優しいのがいいですね。よくカワハギやアマダイ、ヒラメなどをやらせてもらってます。それが、ハズレなしでいつもよく釣らせてくれます。それと乗合船にあまりない釣り物を楽しませてくれるところも気に入っています。イワシメバルは毎年のお楽しみです。船長が釣らせてくれるメバルは型がよくて数も上がりますので毎回満足しています。年明けはアマダイやカワハギでお願いします」と思っています

当日は5名で乗船し一人あたりの料金は1万1000円。ご協力ありがとうございました。



●お兄ちゃんの裕くんも良型のメバルをゲット

●アカハタはうれしいゲスト

30センチ級中心に40センチクラスも上がり、イトヨリなども交じるぞうだ。

亀城根周りや城ヶ島沖で狙うカワハギは24~27センチの良型主体に楽しめ、日によっては30センチオーバー交じる。

春先にかけてはヤリイカも面白く、釣ったヤリイカを泳がせて大型のマダイやワラサ、ハタなどを狙うことも可能。釣り場は長井沖や城ヶ島沖の水深150メートル前後で、こちらもリピーターが多いという。

そのほか冬場は亀城根周りなどを探るアオリイカや沖ノ瀬のキンメやクロムツへも出船する。

梶ヶ谷昇大船長、英樹船長、涼船長は優しく穏やかな人柄で実に親切。ぜひ皆さんも家族や仲間を誘ってお出かけいただきたい。

朝から良型のメバルが連発!

昇丸を訪れたのは12月17日のこと。神奈川県藤沢市の湯浅義行さんが幹事を務めるグループがイワシメバルで仕立てた船にお邪魔させていただいた。

当日は6時半に出船。港を出て5分も走らない長井沖3メートルルダチで開始となった。

ここでいきなり竿を曲げたのは小学校5年生の福本翔くん。落ち着いたヤリトリで魚を浮かせ、タモに誘導したのは25センチオーバーの立派なメバル。続いて翔くんの兄である裕くんも20センチ級の本命をキャッチした。

「うちのグループは大人より子供のほうが釣りがうまいんですよ(笑)」とは幹事の湯浅さん。確かに二人とも道具の扱いに慣れている魚を掛けた後も実に冷静である。スゴイ小学生がいたものだ。

その後流し変えると湯浅さんも25センチ級のメバルを釣り上げ、子供たちのお父さんである

福本哲哉さんは同級のアカハタをゲット。

流しを変えるとメバルの1荷やメバルとカサゴの1荷もあつたりして船上はなかなかの盛り上がり。湯浅さんも30センチ級のアカハタを釣り上げ海水循環させたバケツは良型の根魚で埋まっていく。

「今日は潮が急に澄んじやったんでどうかな? と思ってたんですが、顔を見られてよかったですよ」とは梶ヶ谷英樹船長。

船長の言葉とおり潮はかなり澄んでいて底の岩礁がハッキリと見て取れる。十分に釣れているように思えたが潮が濁っていったらもつと釣れるのだらう。

時間の経過とともにメバルの食いは落ち着き、お昼を過ぎるころにはたまにアタる程度になってしまったが、すでにお土産には十分な釣果を上げています皆さん。終始楽しそうに釣っていた福本さんは、

「テカイのは刺身でいただきます!」と言ってニッコリ。絶品であるに違いない。

後半戦は少々厳しくなりましたが皆さんは満足した様子で沖揚がりの時間を迎えた。

長井沖を狙うイワシメバルはまさにこれらが本番。超おすすです。